

委託事業実施内容報告書

令和4年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業 【地域日本語教育実践プログラム】

実施内容報告書

団体名：特定非営利活動法人多文化共生リソースセンター東海

1. 事業の概要

事業名称	在日ブラジル学校におけるキャリア形成に向けた日本語教育普及プロジェクト
日本語教育活動に関する特定のニーズの実情や課題	日本政府は2019年6月に「日本語教育の推進に関する法律」を定め、「日本語学習を希望するすべての者」を対象に日本語教育機会を提供するとともに、その質的向上も重要であるとした。国内のブラジル学校に在籍する生徒のほとんどは卒業後も日本での生活を継続しているが、在学中に日本社会で社会人として活躍するために必要な日本語力を身につけられていないため、日本企業に正社員として雇用されるケースは非常に稀で、非正規雇用やニート、フリーターとなってしまう若者が多い。そこには、日本語の授業時間数が短いことや、専門家による授業を受けられていないこと、体系的なカリキュラムや教材などが無いこと、卒業後の自身のキャリアをイメージすることが難しいために日本語習得に関する意欲があまり高くないこと等、様々な要因がある。2021年度に「ブラジル学校における日常生活及びキャリア教育としての日本語コミュニケーション力向上モデルプロジェクト」（文化庁委託事業プログラムC）の一環で実施した「在日ブラジル学校における日本語教育実態調査」から、各学校で日本語教育は少なからず行われているものの、担当者の多くが日本語教育の専門性を持ち合わせておらず、適当なカリキュラム作成や教材選定に困難を感じていること、また研修機会をほとんど得られていないことが日本語教育環境の充実に向けての課題となっていることがわかった。
事業の目的	大きくは、在日ブラジル学校（注1）に在籍する生徒が、日常生活を円滑に過ごす上で必要な日本語及び日本語でも自身のキャリアを考えられる力を身につけ、卒業後も日本社会で活躍できる人材に育つ（注2）ための日本語教育環境の充実を目的とする。その中で本事業を通じて、下記の事業内容に記載する①カリキュラム・教材の開発、②日本語教育人材の育成、③地域社会との連携構築に取り組む。
事業内容の概要（課題をどのように解決したのか、どのような点が先進的な取組であったのか分かるように記載）	愛知県内のブラジル学校でも、もっとも日本語教育に熱心な「エスコーラ・ネクター」（豊田市、ブラジル政府認可校）を拠点に、以下（1）～（4）の事業を通じて「在日ブラジル学校における日本語教育機会の充実及び質的向上」という課題の解決に取り組んだ。 （1）運営委員会 事業全体の方針・進め方の検討、進捗状況の共有、今後の展開についての議論を行った。 （2）卒業後のキャリア形成に向けた日本語教育プログラム 日常生活に必要な日本語力及びキャリア教育としての日本語コミュニケーション力

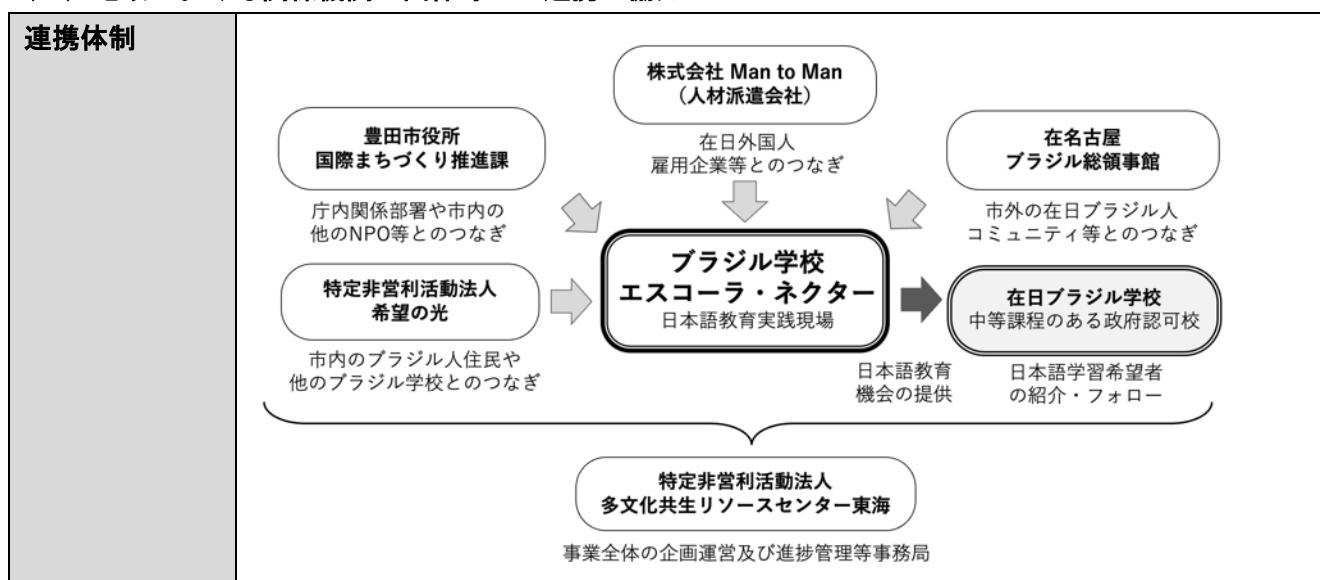
	の向上により、ブラジル学校卒業後の進路（就職・進学）が明確になり、希望の進路に進むための力を涵養する。また、これらに必要なカリキュラムや教案・教材等の作成を行った。 （３）在日ブラジル学校と地域社会とのネットワーク構築 在日ブラジル学校と地域社会との連携・協働モデルとして、エスコラ・ネクターと豊田市内・愛知県内の関係機関等における顔の見える関係づくりと連携・協働のあり方について検討する。また、この成果等を広く共有するための公開シンポジウムを行った。 （４）在日ブラジル学校における日本語教育担当者のためのオンライン研修 在日ブラジル学校の日本語教育担当者のスキルアップを促した。
事業の実施期間	令和 4 年 5 月 ～ 令和 5 年 3 月 （ 11 か月間）

2. 事業の実施体制

（１）運営委員会

実施体制	西クレオニセ、ヒガシ・リカ、山家ヤスエ、蜂須賀真希子（エスコラネクター） 藤本真理（特定非営利活動法人希望の光） 堀永乃（一般社団法人グローバル人財サポート浜松） 鈴木崇夫（愛知淑徳大学）、村山グスタボ秀夫（株式会社 Man to Man） 丸山宗祐（豊田市国際まちづくり推進課） 土井佳彦（特定非営利活動法人多文化共生リソースセンター東海）
------	---

（２）地域における関係機関・団体等との連携・協力



（３）中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

実施体制	事業責任者：土井佳彦、会計責任者：河村槇子、会計担当者：森建輔 いずれも特定非営利活動法人多文化共生リソースセンター東海
------	--

3. 各取組の報告

特定のニーズに応じた日本語教育の実施日本語教育の実施										
【活動の名称：卒業後のキャリア形成に向けた日本語教育プログラム】										
取組の目標		卒業後の自身のキャリア（進路・進学等）を描けていること、さらに希望するキャリアに近づくための日本語コミュニケーション力等を備えている状態を目指す								
内容		日本語学習教材『いろどり』を使用した日本語授業を実施した。日常生活を円滑に過ごす上で必要な日本語及び知識の習得を目指した。また、日本社会を経験し、自身のキャリアを考えられる力に繋げるため、校外学習として図書館利用体験、大学への出張講義にも参加した。								
実施期間	令和４年７月１日 から 令和５年１月３１日 まで			授業時間 ・コマ数		１回 １.５時間×６８回 １回、 ２時間× １回 ＝１０４時間				
対象者	エスコラ・ネクター中等課程在籍者			参加者		総数 １１人 (受講者 １１人)				
カリキュラム案活用	01 医療機関で治療を受ける 03 健康に気をつける 05 災害に備え、対応する 07 住居を管理する 08 物品購入、サービスを利用する 10 電車、バス、飛行機、船等を利用する 12 徒歩で移動する 32 異文化を理解する 39 学習する 44 余暇を楽しむ 45 郵便、宅配便を利用する									
使用した教材・リソース	『いろどり入門～初級２』、『みんなの日本語Ⅰ』 各講師の自作教材など									
受講者の出身（ルーツ）・国別内訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
			11							

取組事例①

【令和4年11月15日】
『いろどり』初級2第5課を実施した。語彙を増やし、書く練習としてディクテーション（語彙6問、短文1問）を実施してから教科書の学習に入った。1つ目のセクションでは、日本の観光地を知り、それがどんな場所かを表す表現「カニがおいしいです。」「海がきれいです。」などを学んだ。2つ目のセクションでは、友人と旅行の計画を話し合う会話を聞きながら、交通手段、旅行先で何をするか相談する会話を学んだ。また、本課の内容は、学期末の口頭テストでも取り上げることを生徒に予告すると、皆、張り切って会話練習に励んだ。



取組事例②

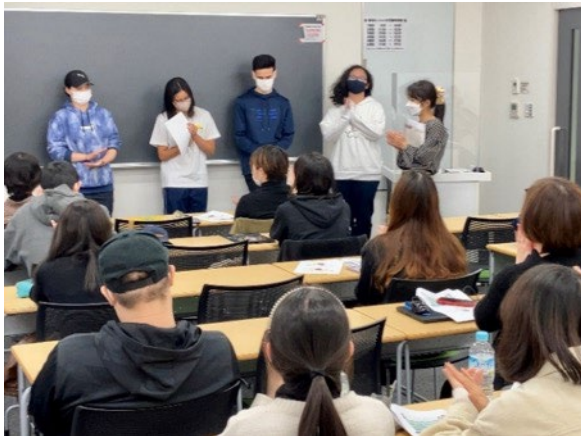
【令和4年11月22日、28日】

11月22日に名古屋外国語大学、28日に日本福祉大学を訪問した。大学までの行き方、運賃を調べ、実際にそのルートで公共交通機関を利用した。大学では言葉を使ったゲームのルール説明、勝敗のつき方などを日本語で説明し、大学生とゲームを楽しむことができた。

ゲームの後はグループに分かれて、交流の時間を設けた。語彙数や表現は限られているものの、積極的に日本語でやり取りをしている姿は、普段の教室活動ではなかなか見られない姿だった。

後日、フォロー学習として、体験をまとめたポスターを制作した。

本活動には既卒者2名も参加を表明したが、1名はコロナによる自宅待機のため参加が叶わなかった。



(1) 目標の達成状況・成果（取組による特定のニーズの充足）

『いろどり』を使った日本語学習は順調に進んでおり、引き続き初級1以降の学習を進める。日常生活を円滑に過ごす上で必要な日本語及び知識の習得には、まだまだ学習時間が必要だが、日本語を話すことへの抵抗感は少しずつ薄まってきている様子で、授業中の日本語での発言が増えたり、活動への積極的な参加が見られるようになってきた。

学期末にテストを実施することで、目標ができ、会話練習への積極的な姿勢や質問などが出るようになってきている。テスト実施の好影響だと言える。

(2) 今後の改善点について

日本語の授業においては、会話練習にもう少し時間を割きたい。これまでは、日本語を話すこと自体に消極的な生徒たちだったため、無理強いせずとしたが、今後はしっかりと発話練習ができるよう取

り組みたい。

キャリア教育について、生徒と日本社会の接点がまだまだ希薄だと感じる。自身のキャリアを考えられるだけの豊富な社会との接点や経験が少ない。図書館利用体験や、大学訪問などのような生徒と社会を繋げる企画を増やし、その準備、まとめを通じて実体験に則した日本語学習を展開していきたい。

「取組の成果の発信や普及及び住民の日本語教育への理解の促進」

【活動の名称：在日ブラジル学校と地域社会とのネットワーク構築プロジェクト】

取組の目標		エスコーラ・ネクターは、これまで学外の地域コミュニティや公的機関等との関わりが希薄であり、豊田市内にあって孤立した存在であると言える。今後の学校運営を地域に開かれたものとし、在籍児童生徒はもとより、教職員を含め日常的に日本語でのコミュニケーション機会を充実させるためにも、市内関係者・団体との関係構築を目指す。計8回のネットワーク会議（全体会議2回+テーマ別会議6回）後に、1回の公開シンポジウムを開催し、その成果や今後の展開等を発表する。								
内容		ネットワーク会議：ブラジル学校の紹介、対象者の取組紹介、意見交換 シンポジウム：ブラジル学校の紹介、日本語教育の取組報告、意見交換								
実施期間	令和4年7月1日 から 令和5年3月31日 まで	授業時間 ・コマ数			ネットワーク会議 1回 1時間 × 3回 = 3時間 シンポジウム 1回 時間 × 1回 = 時間 1回 1.5時間 × 1回 = 1.5時間					
対象者	ネットワーク会議 愛知県、豊田市、愛知県経営者協会、愛知県立大学 シンポジウム どなたでも	参加者			ネットワーク会議 総数 12人 （受講者 人、指導者・支援者等 人） シンポジウム 総数 86人 （受講者 77人、登壇者 9人）					
カリキュラム案活用	なし									
使用した教材・リソース	エスコーラ・ネクター説明資料									
受講者の出身（ルーツ）・国別内訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
			3 11							9 75
	*上段 ネットワーク会議 下段 シンポジウム									

(1) 特徴的な活動風景（2～3 回分）

取組事例①

【第1回シンポジウム 令和4年12月3日】

豊田市福祉センターにて、ポルトガル語でブラジル学校における日本語教育や母語教育等に関する発表及び意見交換等を行なった。全国各地で同テーマについて実践や研究をしている参加者が集い、今後の日本語教育及び母語・継承語・バイリンガル教育のあり方について、具体的な議論が交わされた。なお、当日は20名程度が参加予定だったが、新型コロナウイルス感染症等の影響により約半数が参加をキャンセルされたことが残念であった。



取組事例②

【第2回ネットワーク会議 令和5年3月17日】

愛知県経営者協会専務理事の岩原朋彦氏に対し、ブラジル学校「エスコラ・ネクター」のご紹介をし、愛知県内の企業としてどのような関わり方ができるか意見交換を行なった。岩原氏からは、学校の生徒に対する職業講話や職場見学機会の提供、またご自身が理事を務めるNPO法人中部プロボノセンターとして、県内企業の社員をプロボノとして紹介することができるかもしれないとの提案を得た。

1996年～ 現ネクター校長の自宅でポルトガル語教室を開設

様々な理由で日本の公立校に適応できなかった不登校児や不就学児となっていたブラジルルーツの子どもたちの居場所と学び場として運営。



(2) 目標の達成状況・成果（取組による特定のニーズの充足）

令和4年中は、新型コロナウイルス感染症の影響等により、予定していた全体会議を開催することができず、また個別のテーマについても関係者の日程調整が困難となり、年明けに個別にオンラインでの開催とすることとした。

結果として、事業期間中に愛知県、豊田市、愛知県経営者協会、愛知県立大学の4者と各1回の意見交換をするにとどまったが、4者とは今後の連携・協働に向けた具体的な提案等が出されたことで、目標は達成されたものとする。

(3) 今後の改善点について

今後は、本事業期間中に調整がつかなかった関係者・団体に改めて依頼をし、対面またはオンラインでの意見交換会を実施したい。

また、意見交換ができた4者についても、今回出された提案事項について検討を重ね、連携事業の実施へと進めていきたい。

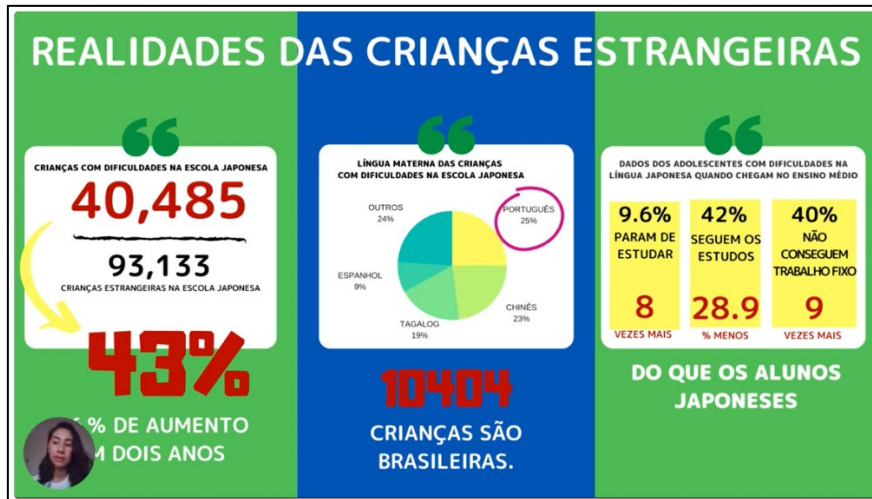
任意取組＜取組名＞										
【活動の名称：在日ブラジル学校における日本語教育担当者のためのオンライン研修】										
取組の目標		在日ブラジル学校で日本語教育担当者（希望者含む）が、日本語教育に関する基礎的な知識を備え、目的に応じて効果的なカリキュラム編成や教材選択・作成、日本語指導等ができるようになることを目指すとともに、そうした人々が日頃から相互に学び合える関係づくりの構築をはかる。								
内容		① 在日ブラジル学校の現状と課題 ② 生活上のコミュニケーション達成を目的とした教え方 ③ JLPT(日本語能力試験)とその対策について								
実施期間	令和４年９月１日 から 令和５年３月３１日 まで			授業時間 ・コマ数		１回 １時間 × ３回 ＝ ３時間				
対象者	ブラジル学校における日本語教育担当者及び関心のある方			参加者		総数 不明 (受講者 人、指導者・支援者等 人) * 視聴回数 ①72回、②101回、③11回				
カリキュラム案活用	なし									
使用した教材・リソース	自主制作動画及び講義資料 https://note.com/mrct/n/n6ca71335fdca									
受講者の出身（ルーツ）・国別内訳（人）	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	* 不明									

(1) 特徴的な活動風景（2～3回分）

取組事例①

【第1回 令和4年9月1日～令和5年3月31日】

ブラジル学校「エスコラ・ネクター」の山家ヤスエ氏より、「在日ブラジル学校の現状と課題」と題して、日本語とポルトガル語での講義をしていただいた動画（2021年度作成）をWebサイトで配信し、希望者に随時視聴してもらった。視聴後はアンケートへの回答をお願いし、理解度等を確認した。



取組事例②

【第2回 令和4年9月1日～令和5年3月31日】

セントラルジャパン日本語学校（名古屋市）の柏谷涼介氏より、「生活上のコミュニケーション達成を目的とした教え方」と題して、日本語で講義をしていただいた動画（2021年度作成）とポルトガル語に翻訳した資料をWebサイトで配信し、希望者に随時視聴してもらった。視聴後はアンケートへの回答をお願いし、理解度等を確認した。

69 ■ 文法偏重を脱するには		
文型中心の教科書をCan-doに基づいたものに変える		
■他にもこの方法の利点はいろいろあります。		
	文型に基づいた教科書	Can-doに基づいた教科書
語彙	・実際の使用頻度の低いものがかなりたくさんある。 ・作成された時代が昔のものが多く、語彙や場面が古いものがある。	・Can-doに基づいた使用頻度の高いものが選ばれている。 ・教科書自体が新しいものが多いので、語彙や場面も時代に合っていることが多い。
文法	・実際の使用頻度は考慮されておらず、使用頻度の低いものがかなりたくさんある。	・Can-doに基づいた使用頻度の高いものが選ばれている。
「会話」など	・その課の文型を全て網羅した会話場面を作りにくいので、不自然になったり使われないものがあったりする。	・Can-doに基づいているので、練習で使った語彙や文法がそのまま使え、自然。
流れ	・特に言語習得のプロセスは取り入れられていない。	・人の言語習得のプロセスが取り入れられているものがある。

(2) 目標の達成状況・成果（取組による特定のニーズの充足）

昨年度作成した動画に加えて、今年度新たに追加する予定であったが、事業担当者及び運営委員からの助言により、学習コンテンツを増やすよりも昨年度のものを普及していくこととした。そのぶん、事業

を早期に開始することができ、多くの方に見ていただくことができた。
また、オンラインアンケートを通じて、各講義の内容が十分に理解できたものであることがわかった。

（３）今後の改善点について

今年度は、ブラジル学校における新型コロナウイルス感染症の影響等により、オンラインでの研修開催を中止することになったため、予定していたプログラムを完遂することができなかった。
来年度以降、改めて新規コンテンツの拡充とともに、オンラインまたは対面での研修機会を設けるなど、ブラジル学校における日本語教育関係者の質の向上とネットワーク構築を展開していきたい。

４．事業に対する評価について

（１）事業の目的・目標

大きくは、在日ブラジル学校に在籍する生徒が、日常生活を円滑に過ごす上で必要な日本語及び日本語でも自身のキャリアを考えられる力を身につけ、卒業後も日本社会で活躍できる人材に育つための日本語教育環境の充実を目的とする。その中で本事業を通じて、下記の事業内容に記載する①カリキュラム・教材の開発、②日本語教育人材の育成、③地域社会との連携構築に取り組む。

（２）特定のニーズの充足に向けて試行した方法

取組２について、生活日本語に加えて、キャリア教育として大学訪問等を行なった。
取組３について、オンラインで関係者との意見交換を行なった。
取組４について、オンデマンド研修の機会を提供した。

（３）目標の達成状況・成果（取組による特定のニーズの充足）

取組２について、日本語で日常生活及び卒業後のキャリアについて、日本語でも他者に説明したり、他者のそれを日本語で理解することができるようになった。
取組３について、４団体との意見交換を通じて、次年度以降の具体的な連携・協働の目処がついた。
取組４について、対象者が都合の良いタイミングで日本語教育のスキルアップにつながるオンデマンド研修を受けられるようになった。

（４）地域の関係者との連携による効果、成果等

愛知県・豊田市とは、2024 年度以降の連携に向けて、予算や支援策の検討をすることができた。
愛知県経営者協会及び愛知県立大学とは、2023 年度の連携に向けた具体的な取り組み案を共有することができた。

（５）事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

毎月、NPO 法人多文化共生リソースセンター東海のウェブサイトや SNS 等で広報を行なった。

（６）改善点、今後の課題について

取組１については、秋に予定していた運営委員会が開催できず、３回の予定が２回になってしまった。

取組 2 については、予定していたゲスト講師の招聘ができなかった。

取組 3 については、予定していた関係者 12 団体のうち 4 団体しか意見交換が実施できなかった。

取組 4 については、オンライン研修が開催できなかった。